

生きているということは
誰かに借りをつくること
生きているということは
その借りを返すということよ
誰かに借りたら 誰かに返す
誰かにそうしてもらったように
誰かに返してあげよう (ビスターリさとみ会 文章)



(写真 ピアノを弾く深谷さん)

点と点、線から面へ

任意団体・NPO法人に関わらず、どんな活動でも、続けていく時に波がある。活動ひとつひとつを点として、その点と点をつなぎ、線に、面にと展開していく戦略を持つかどうか。波は、点を線につなげていくプロセスにそうしてはじめて団体の前に姿をあらわす。設立3年目にあたるビスターリさとみ会は今どんな波に乗っているのだろうか、訪ねてみた。

借りをつくること、借りを返すこと

のどかな田園風景と里山を借景にビスターリさとみ会の建物がある。玄関を入ると正面に額が飾ってあり、「生きるということとは、誰かに借りをつくること。生きているということはその借りを返すということ」とよ。」とある。「近所へ米を買いに行つて来ました」と軽トラックを軽快に運転して理事の深谷さんが現れた。「米屋のおばちゃん」と話し込んで、「...」と楽しげに話す様子からは地域にとけこんでいるのがうかがわれる。木目も新しい食堂の囲炉裏の前で、深谷さんにお話を伺った。

人を畏れ、人にひるまず

ビスターリさとみ会は登校困難な児童や生徒の援助活動を主目的におく団体との認識でお話を伺っていたが、もうひとつ大事にしている点があったようだ。事業として何を行うかよりも、このような自然に恵まれ豊かな体験ができる場所に、人間関係をつくる

ためのスペースがある、そのこと自体に大きな意義があると。...。玄関に飾ってあった額の意味はそこにあつたのだ。「人間関係を築くことが難しい今の時代にこそ、この場所の意味がある」「人を恐れ、ひとにひるまず」「人間関係を創っていくことの大切さが本来の活動目的であつたようだ。

ビスターリさとみ会では、施設の維持管理活動を含め、同会で計画する事業や施設運営のためのボランティアを常時募集している。自然体験、緑を守る体験、古代の生活体験などの事業に参加する人も、それらの事業を支える側のボランティアも同じ立場で出会い、その出合いをゆつくりと着実に人と人のつながりとして育んでいくことを大切にしている。

この出合いを育むという方向性で事業を見直しさらにそれぞれの事業を結びつけ、線とすること、それが現在の同会の課題のひとつではないだろうか。

「人を熱中させるまでは熱く語るが、人が熱中したのが見えてきたら、今度はさめた目で省つて自己を見つめられることがリーダーには欠かせない能力です。」「自己の中に絶えず他者の目を意識し、冷静に判断できてこそリーダーであると言ひ切る理事のいる会ならではの現状認識に期待したい。

紙風船を打ち上げつつけよう

深谷さんは、県内各地の学校を音楽専攻の先生として歴任し、長く現場から子どもたちを見つめてきた人である。2階ホー

ルにはピアノがあり、お話の終わりに流れるような曲を弾いてくださった。窓のそとに吹きたる風とピアノの音が詩情ともいえる雰囲気をかもし出してくれたせいも、深谷さんのピアノを聴きながら私は一編の詩を思い出した。

紙風船 詩・黒田三郎
落ちて来たら
今度は
もっと高く
もっともっと高く
何度でも
打ち上げよう
美しい
願いことのように

「紙風船」とは希望のことである。落ちてくる紙風船を何度でも打ち上げる、その打ち上げ続ける意思の力を深谷さんのお話とビスターリさとみ会の活動に感じた。

(文ノ塩原慶子)

DATA

特定非営利活動法人
ビスターリさとみ会
〒311-0506
久慈郡 里美村
大字折橋 横川 1444 1
0294-70-7007
FAX 0294-70-7177